

最近の経済情勢について

産業労働部産業政策課

I 世界

月例経済報告〔令和2年1月（R2.1.22 内閣府）〕

- 世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。
- 先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。

ただし、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱、中東地域を巡る情勢、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。

【米 国】 ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前期比年率+2.1% ～

- ・景気は、回復が続いている。
- ・先行きについては、回復が続くと見込まれる。
- ・ただし、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。

【欧 州】 ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前期比年率+0.9% ～

- ・景気は、弱い回復となっている。
- ・先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。
- ・ただし、通商問題を巡る動向、英国のEU離脱の影響等によるリスクに留意する必要がある。

【アジア】**（中 国）** ～ 実質 GDP 2019年10-12月期 前年同期比+6.0% ～

- ・景気は、緩やかな減速が続いている。
- ・先行きについては、当面は緩やかな減速が続くことが見込まれるが、各種政策効果が次第に発現することが期待される。
- ・ただし、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。

（韓 国） ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前期比年率+1.7% ～

- ・景気は、弱い動きとなっている。

（台 湾） ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前年同期比+3.0% ～

- ・景気は、緩やかに回復している。

（インド） ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前年同期比+4.5% ～

- ・景気は、弱い動きとなっている。

（インドネシア） ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前年同期比+5.0% ～

- ・景気回復は、緩やかになっている。

（タ イ） ～ 実質 GDP 2019年7-9月期 前年同期比+2.4% ～

- ・景気は、弱い動きとなっている。

Ⅱ 日本 ～ 実質 GDP 2019年7-9月期（2次速報値） 前期比年率 1.8% ～

1 月例経済報告〔令和2年1月（R2.1.22 内閣府）〕

「景気は、輸出が引き続き弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増しているものの、緩やかに回復している。」

- ・ 個人消費は、持ち直している。
- ・ 設備投資は、緩やかな増加傾向にあるものの、一部に弱さがみられる。
- ・ 輸出は、弱含んでいる。
- ・ 生産は、一段と弱含んでいる。
- ・ 企業収益は、高い水準にあるものの、製造業を中心に弱含んでいる。企業の業況判断は、製造業を中心に引き続き慎重さが増している。
- ・ 雇用情勢は、改善している。
- ・ 消費者物価は、このところ上昇テンポが鈍化している。

先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱、中東地域を巡る情勢等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。

2 四半期別実質GDP成長率（R元.12.9 内閣府）

（単位：％）

	2018.7-9月期	10-12月期	2019.1-3月期	4-6月期	7-9月期 ※2次速報値
季節調整済前期比	△0.6	0.3	0.6	0.5	0.4
年率換算	△2.4	1.0	2.6	2.0	1.8

Ⅲ 長野県

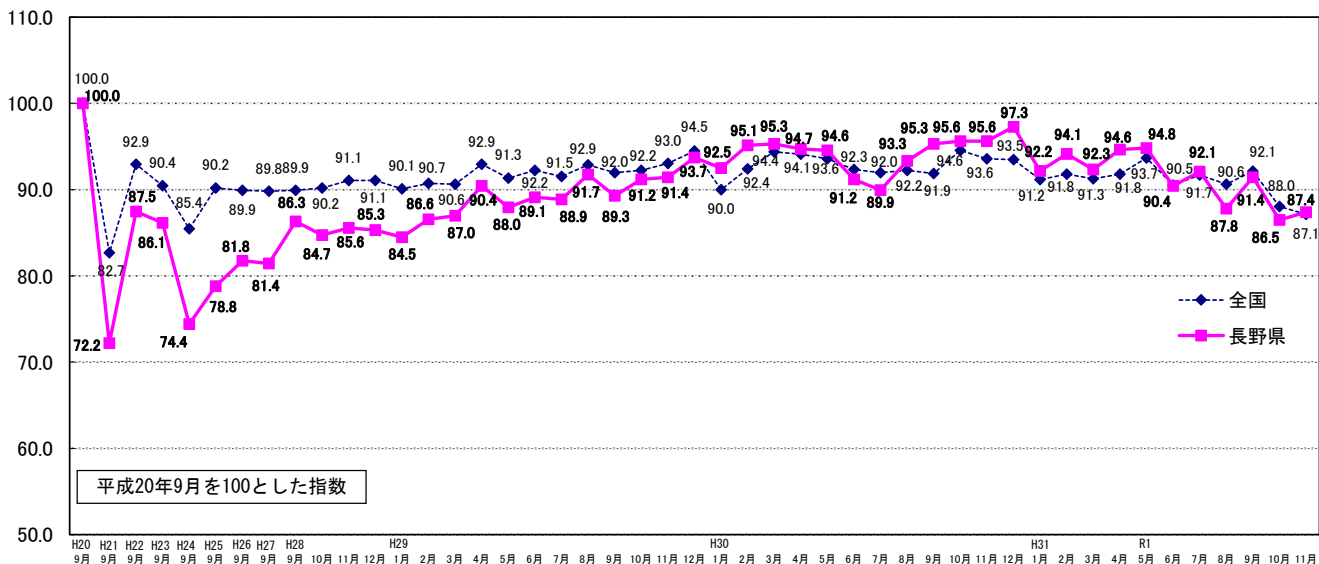
1 長野県の金融経済動向（R元.12.13 日本銀行松本支店）

長野県経済は、台風19号の影響などがみられるものの、緩やかに拡大している。

最終需要の動向をみると、設備投資は増加している。また、住宅投資は横ばい圏内で推移し、個人消費は、台風19号や消費税率引き上げの影響がみられるものの、底堅く推移している。公共投資は持ち直している。この間、生産は高水準ながらも、弱めの動きが続いている。雇用・所得は、労働需給が引き締まった状態が続いており、改善している。

企業の業況感は、製造業を中心に幾分改善している。

2 鉱工業生産指数（季節調整済指数）の推移



※上記指数は、長野県鉱工業生産指数（長野県企画振興部）、鉱工業生産指数（経済産業省）を基に産業政策課で算出したものである。